

幸町地区の学校適正配置参考シミュレーション

1 小学校

(1) 幸町地区の小学校の平成26年度の状況（統合が行われない場合）

	学級編制の状況				教員配置			
	児童数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準	特別な加配			
					県費	市費		
幸町第一小	1年	47	2	24	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(11) 特別支援学級担任(2) 専科担当(1)	/	/
	2年	47	2	24				
	3年	33	1	33				
	4年	48	2	24				
	5年	46	2	23				
	6年	41	2	21				
	普通学級小計		11					
特別支援		2						
計	262	13	平均24名	3名	15名	0名	0名	
幸町第二小	1年	40	2	20	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(9) 特別支援担当(通級指導3)	/	/
	2年	39	2	20				
	3年	37	1	37				
	4年	34	1	34				
	5年	32	1	32				
	6年	42	2	21				
	計	224	9	平均25名				
幸町第三小	1年	144	4	36	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(25) 専科担当(2)	少人数加配 教員 (6年)	少人数学習 指導教員 (1・2・3年)
	2年	142	4	36				
	3年	147	4	37				
	4年	149	4	37				
	5年	171	5	34				
	6年	154	4	39				
	計	907	25	平均36名				
幸町第四小	1年	20	1	20	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(6)	/	/
	2年	29	1	29				
	3年	21	1	21				
	4年	21	1	21				
	5年	14	1	14				
	6年	23	1	23				
	計	128	6	平均21名				

※特別支援学級の学級数は、平成20年度の設置数を参考にした。

(2) 統合シミュレーションによる平成26年度の幸町地区の小学校の状況

★参考統合シミュレーション1（幸町第一小・幸町第四小を統合）

	学級編制の状況			教員配置				
	児童数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準	特別な加配			
					県費	市費		
幸町第一小 + 幸町第四小	1年	67	2	34	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(12) 特別支援学級担任(2) 専科担当(1)	少人数加配 教員(2年)	
	2年	76	2	38				
	3年	54	2	27				
	4年	69	2	35				
	5年	60	2	30				
	6年	64	2	32				
	普通学級小計		12					
	特別支援		2					
計	390	14	平均33名	3名	16名	1名	0名	

・場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる。
・学校行事が活性化する。

・クラス替えができ、より社会性を育むことが期待できる。
・学年ごとに、教員同士の研修ができる。

音楽など専門的な知識を持つ教員の指導を受けられる。

教員の校務分掌の負担が減る。

2年生は、少人数指導を展開するか、3クラスに分けることができる。

★参考統合シミュレーション2（幸町第二小・幸町第四小を統合）

	学級編制の状況			教員配置				
	児童数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準	特別な加配			
					県費	市費		
幸町第二小 + 幸町第四小	1年	60	2	30	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(12) 特別支援担当(通級指導3)		
	2年	68	2	34				
	3年	58	2	29				
	4年	55	2	28				
	5年	46	2	23				
	6年	65	2	33				
	計	352	12	平均29名				

・場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる。
・学校行事が活性化する。

・クラス替えができ、より社会性を育むことが期待できる。
・学年ごとに、教員同士の研修ができる。

教員の校務分掌の負担が減る。

★参考統合シミュレーション3（幸町第一小・幸町第二小・幸町第四小の統合）

	学級編制の状況			教員配置			
	児童数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準	特別な加配		
					県費	市費	
幸町第一小 + 幸町第二小 + 幸町第四小	1年	107	3	36	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(19) 特別支援学級担任(2) 特別支援担当(通級指導3) 専科担当(1)	少人数学習指導教員(1年)
	2年	115	4	29			
	3年	91	3	30			
	4年	103	3	34			
	5年	92	3	31			
	6年	106	3	35			
	普通学級小計		19				
	特別支援		2				
	計	614	21	平均32名			

・場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる。
・学校行事が活性化する。

・クラス替えができ、より社会性を育むことが期待できる。
・学年ごとに、教員同士の研修ができる。

教員の校務分掌の負担が減る。

音楽など専門的な知識を持つ教員の指導を受けられる。

1年生は、少人数指導を展開できる。

2 中学校

(1) 幸町地区の中学校の平成26年度の状況（統合が行われない場合）

	学級編制の状況			教員配置			
	生徒数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準	特別な加配		
幸町第一中	1年	67	2	34	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等	/
	2年	61	2	31			
	3年	65	2	33			
	計	193	6	平均32名			
幸町第二中	1年	159	5	32	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等	少人数加配教員(3年)
	2年	162	5	32			
	3年	157	4	39			
	計	478	14	平均34名			

(2) 統合シミュレーションによる平成26年度の幸町地区の中学校の状況

★参考統合シミュレーション1 (幸町第一中・幸町第二中を統合した場合)

		学級編制の状況			教員配置		
		生徒数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準	特別な加配	
幸町第一中 + 幸町第二中	1年	226	6	38	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等	/
	2年	223	6	37			
	3年	222	6	37			
	計	671	18	平均37名			

・場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる。
・学校行事が活性化される。

・教員が免許外の教科を担当することはない。
・ほとんどの教科で複数の教員が配置されるので、教員同士の研修ができる。
・ニーズに応じた部活動数を確保できる。
・教員の校務分掌の負担が減る。

★参考統合シミュレーション2

(幸町第一小・幸町第二小・幸町第四小を統合し、幸町第一中学校区とした場合
〔幸町第二小学校区を幸町第二中学校区から幸町第一中学校区に変更〕)

		学級編制の状況			教員配置		
		生徒数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準	特別な加配	
幸町第一中	1年	104	3	35	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等	/
	2年	106	3	35			
	3年	111	3	37			
	計	321	9	平均36名			
幸町第二中	1年	122	4	31	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等	少人数加配教員(2年)
	2年	117	3	39			
	3年	111	3	37			
	計	350	10	平均36名			

※幸町第二小学校区内の生徒は、住民基本台帳上の人数で計算

両中学とも、ほぼ同じ規模になる。

全教科で教員の配置がほぼ可能である。

2年生は、少人数指導を展開するか、4クラスに分けることができる。